金山活粋野菜倶楽部
第41回通常総会

所得向上へ「金山ブランド」さらに磨く

金山活粋野菜倶楽部の「第41回通常総会」が5月9日、金山町農村環境改善センターで開かれ、金山産野菜の販売単価県下1位達成をめざして令和元年度事業計画などを承認、現在、生産販売が進められています。

金山活粋野菜倶楽部の第41回通常総会で挨拶する丹幸雄理事長

園芸販売の振興拡大を

園芸販売事業の振興拡大をはかるには、生活の基本である所得の向上が重要になります。そのため、さらなる品質の向上に取り組み金山産野菜のブランド力を高める必要があります。基本方針としては、最上広域での予約相対取引による販売価格の底上げや安全・安心農産物づくりとして本年度も「やまがた農産物安全安心取組認証」を行います。さらに他県での消費宣伝などを活発に行い、市場や消費者が求める産地づくりに応えてゆきます。

また、JAグループとして販売取扱高の達成に向け、県や町の農業施策の有効活用をはかり、米農産物の生産振興と併せて生産性が高く市場性のある重点園芸振興作物への誘導をはかってゆきます。

ブランド力の向上と安全安心への取組み

ブランド力の向上と安全安心への取組みが重点となります。

①金山産野菜のさらなる「ブランド力」向上については、金山産野菜の県下1位の販売単価目標達成にむけて品質の底上げをはかること、講習会や先進地研修、消費宣伝活動、目揃会を計画的に行います。

②消費者からの信頼確保に向けた安全・安心への取組みでは、「やまがた農産物安全安心認証」へ取組むこと、農薬の適正使用と旗揚げ運動によるドリフト対策の徹底、残留農薬出荷前分析を行います。

出荷共励会の表彰

活粋賞の表彰

第41回総会に出席された皆さん

令和元年度野菜販売額2億3900万円計画

令和元年度は、キュウリ・ニラ・ミニトマト・ネギ・ネギ（葉ネギ）・シシトウ・アスパラガスの品目で合計数量477、450㌔、販売金額2億3917万円を計画しています。

平成30年度 野菜出荷共励会表彰者

にら部会　4点

最優秀賞　上山崎　大場　敬蔵さん
優秀賞　上台　天口幸智美さん
優秀賞　上山崎　須賀　益夫さん
品質優良賞　板橋　髙橋美栄子さん

品質優良賞　1点

胡瓜部会　安沢　笹原　晴美さん

平成30年度「活粋賞」表彰者

中下　正野圭太郎さん
小蝉　千川原アキ子さん
飛森　三上　勘一さん

「達者de菜」初出荷式 最上広域野菜振興協議会にら部会

最上広域野菜振興協議会にら部会は5月15日、JAおいしいもがみ北部営農センターで令和元年産ニラの安全祈願祭と初出荷式を開きました。

最上地区産のニラは県内生産の約9割を占め、「達者de菜」の統一ブランドで親しまれ、平成30年産まで4年連続で販売額10億円を達成。令和元年産では過去最高の販売額12億円をめざしています。同協議会のニラ部会長は金山活粋野菜倶楽部の大場孝さん（上山崎）が務められています。

金山産ニラの栽培管理と販売方針確認 年度初めに講習会・高品質ニラ継続出荷へ

「金山活粋野菜倶楽部」は新年度早々4月3日、「ニラ栽培講習会」をJA金山会議室で開催、ニラの栽培管理や販売方針、一層の高品質ニラ継続出荷に向けた取り組みを確認しています。

出荷量拡大やブランド規格の統一

平成30年産は、最上広域での値決め契約や加工ニラなどの販売戦略が功を奏し、出荷量は前年並みであったもののシーズンを通して高値で取引され、単価は前年比12・4％高の1㌔当たり618円、販売金額が7・1％増の2億667万円となりました。

令和元年産では、市場の要望にこたえられる出荷量の確保やブランド規格の統一、「エナジーグリーンベルト」の面積拡大などに取り組むことを確認。出荷形態は鮮度保持袋のFG（フレッシュアンドグリーン）を使用し100㌘入れと同90㌘入れ、最上広域の取り組みとして加工8㌔としています。

最上総合支庁農業技術普及課の石山久悦専門員が、ほ場の排水・除草対策、株更新と作型の明確化など、消雪後の適期なほ場管理を指導。参加された生産者は栽培履歴や安全性管理協定書の提出など例年通り取り組み、作業の安全と高品質ニラの継続出荷に万全を期していました。

高品質ニラの拡大にむけ熱心に説明を聞く生産者の皆さん。約40人が参加。

◆農政の記録◆

米づくり・平成を振り返る 夢と希望の令和農政へ

弥生の昔から連綿と受け継がれてきた日本の米づくりですが、平成の30年間ほど国内外の激動にさらされた時代はなかったのではないでしょうか。そして令和の時代に入りました。日本人の主食であり国土保全から文化まで、水田が果たす多面的機能などを重視し、需給と安定価格に向けた「令和農政」へ夢と希望をつなげたい。今回、米をめぐる「平成」時代と山形の主な動きを振り返ります。

「平成」の米をめぐる主な動き

2年　自主流通米の入札取引スタート
　　米市場開放阻止山形県大会
4年　「はえぬき」「どまんなか」デビュー
5年　山形県産米作況79、米作況74・タイ米緊急輸入
7年　WTO発足。食糧管理法廃止。
　　食糧法施行
　　米の関税化受け入れ表明
11年　食料・農業・農村基本法施行
14年　米政策改革大綱（農水省）
15年　食糧庁廃止
16年　食糧法改正。米政策改革スタート
19年　米価下落。品目横断的経営所得安定対策スタート（戦後農政の大転換）
21年　民主党政権発足
22年　「つや姫」デビュー。戸別所得補償制度スタート
　　直接支払交付金10ａ1万5000円支払いスタート
24年　山形県が毎月28日を「つや姫の日」に
　　自民党が政権奪取
25年　米の生産調整見直し決定
26年　直接支払交付金10ａ当たり7500円に概算金大幅下落
　　ＪＡ全農山形が「ごはんの日」イベント開始
27年　生産数量目標に自主的取組参考値。
　　日豪ＥＰＡ発効
29年　直接支払交付金廃止。米の需給・価格安定へ要請集会
　　「はえぬき」食味23年連続「特Ａ」逃がす
　　「山形112号」を「雪若丸」と命名。先行販売
30年　生産数量目標に代わり、「生産の目安」導入
　　「雪若丸」本格デビュー
　　主要農作物種子法廃止、山形県主要農作物種子条例施行
　　ＴＰＰ11発効
31年　日欧ＥＰＡ発効

蠍座（10/24～11/22）
【全体運】自己流に固執せず、視野を広げましょう。柔軟な発想が運気上昇の鍵。ガーデニングや盆栽を始めるのもグッド
【健康運】日焼け止め対策は万全に。曇りでも徹底
【幸運を呼ぶ食べ物】イワシ

天秤座（9/23～10/23）
【全体運】人との交流から良い刺激を受けられます。飲み会など、出会いの機会も大切に。思い切ったイメチェンもラッキー
【健康運】体質に合う食材やサプリメントが見つかる予感
【幸運を呼ぶ食べ物】モロヘイヤ

乙女座（8/23～9/22）
【全体運】何となくモヤモヤしやすいかも。好きなことを楽しみ、気持ちを明るく変えてみて。デトックスにもツキあり
【健康運】運動不足を解消すると好転。ヨガが最適
【幸運を呼ぶ食べ物】シシトウ

獅子座（7/23～8/22）
【全体運】勢いのある月。やってみたいことに積極的にチャレンジを。自分の考えやプランを伝えると協力してもらえそう
【健康運】体力の過信はNG。適度に休息を取って
【幸運を呼ぶ食べ物】イチジク

畜産

「平成30年度総括」と「令和元年度計画」

「金山産子牛・肉牛」銘柄高揚！ 儲かる和牛経営 一層強化

少数精鋭で、儲かる和牛経営を目標に、一層の銘柄高揚が期待される「金山産子牛・肉牛」。平成30年度は和牛生産戸数19戸で繁殖雌牛110頭（育成含む）でした。子牛は市場全体に比べて平均販売価格が約13万円高く、肉牛も目標としていた1頭平均100万円台を大きく上回る結果となっています。

下牧するため体重測定を行う金山牛（神室放牧場・昨年10月）

「子牛」高価格相場続く

平成30年度の和牛生産戸数は19戸、繁殖雌牛の飼養頭数は昨年度より4頭減少し110頭です。価格をみると、子牛の販売頭数は47頭で平均価格が773，923円（税込）でした。この金額は市場全体の平均価格643，402円に比べて130，521円高い実績となっています。

肉牛は前年度より4頭増の24頭を出荷。格付けでは4等級以上が100％、5等級以上が約7割ありました。枝肉重量では去勢14頭が平均500kg、雌10頭の平均で473kgとなり増体としては申し分ない成績でした。販売価格も1頭平均1，336，846円（税抜）と、目標の100万円台を大きく上回りました。

和牛繁殖経営の要である分娩間隔の短縮は、平均分娩間隔421日という結果で昨年と比べて10日程伸びました。母牛の高齢化、夏季・冬季の異常気象などが要因でないかと考えられます。

組織活動としては子牛登記検査を年4回、82頭実施。本原登録検査で10頭が母牛となりました。その他、担い手研修会やセミナー等に積極的に参加した1年でありました。

「金山産子牛・肉牛」一層の銘柄高揚めざす

令和元年度も山形最上家畜市場と山形牛枝肉市場の両市場を核として和牛繁殖経営上の最大目標でもある分娩間隔の短縮をめざします。そして、少数精鋭・「儲かる和牛経営」にむけ「金山産子牛・肉牛」の一層の銘柄高揚に努めてゆきます。

令和元年度計画

令和元年度計画の基本事項は、①各種研修会や講習会への積極的な参加、②各種共励会・共進会への出品、③繁殖技術（分娩間隔の短縮）・子牛育成技術の向上、④ワクチネーションによる事故防止、⑤育種価データの有効活用、⑥肉質向上対策、⑦防疫対策の徹底、⑧価格安定対策、⑨良質粗飼料確保対策の九つです。

具体的には、和牛繁殖管理指導巡回、アカバネ病予防対策事業（6月）、コロナウイルス感染症予防対策事業（11月）、下痢予防対策事業、肉牛資質向上対策事業、肉用牛改良事業、踏込み消毒層の設置呼び掛け、防疫対策消毒巡回、子牛補給金制度、肥育経営安定対策（マルキン事業）への個体登録、町内産稲わら確保事業、町有牛導入事業、消費流通宣伝活動などを行います。

「郷土愛」育む機会に 食農教育の教材 小学校に贈る

JAバンク食農教育応援事業の一環

JA金山は4月上旬、小学生に食と環境・農業への理解を深めてもらおうと、高学年向け補助教材「農業とわたしたちのくらし」を町内小学校へ贈りました。JAバンクが平成20年度から展開しているJAバンク食農教育応援事業の一環で、今回の2019年度版は新学習指導要領に対応し、「主体的・対話的で深い学び」の趣旨を踏まえ、教材本の全面改訂とDVDの部分改訂を実施。主に社会科の第5学年の学習内容との関連をはかり構成され、家庭科や総合的な学習でも活用できる内容になっています。

農業・農村のあり方探る

「農業とわたしたちのくらし」は、日本の農業の姿をはじめ、農業と地形や気候条件との関係、米や野菜などの農産物が生産される過程、生産に従事している人々の工夫や努力の様子、農産物の生産や流通、販売にかかる費用や価格の決まり方などを調べ、食料生産を身近に感じるとともに、基礎的な知識が理解できるように構成されています。さらに取り巻く課題や新しい取り組みを紹介し、これからの農業・農村のあり方を考えてもらえるようにしています。

自由研究のヒント

内容は主に社会科の5学年との関連がはかられていますが、家庭科や総合的な学習の時間などでも活用できます。インターネットを活用して情報を検索、収集しながら学習を発展させたり、さらに家庭では保護者と一緒に読み進めたり、「自由研究」のヒントを探したりすることもできます。

山形県の農業も紹介

補助教材の中には山形県も紹介されています。「日本農業マップをつくろう」のページで、米の産出額が多い県として山形県が804億円で第4位、リンゴでは111億円の3位、ブドウが109億円で4位など。また、「農業の新しい取り組み」のページでドローンを使って田んぼに種をまく山形県三川町の作業の様子が掲載されています。

さらに「親子でチャレンジしよう自由研究」のページには、農業・農村に関わる「なぜ？・どうして？・どうなっているの？」を切り口に、①研究テーマを考える②テーマによっては仮説を立てる③研究の方法を考え計画を立てる④計画に基づいて研究を進める⑤調べたことを整理しまとめるといった「自由研究の進め方」を例を示しながら手引きしています。

JAバンク食農教育応援事業の一環として町内の小学校に贈られた「農業とわたしたちのくらし」

農業者・生活者・地域の一人として 楽しみ、そして役立つ活動を展開

JA金山女性部第66回総会

JA金山女性部の第66回総会が5月29日、JA金山会議室で開かれ全5号議案が可決されました。任期満了による役員改選で、山形県JA女性部連絡協議会会長も務められ、JA金山女性部長として長年にわたり組織をけん引されてこられた樋渡洋子さんが勇退。新部長に松田秀子さん（朴山）が選任されました。

勇退された前女性部長の樋渡洋子さん

新役員の皆さん（右端が新部長の松田秀子さん）

参加された部員の皆さん

JA女性組織の歴史は、第2次世界大戦後の農協婦人部の結成に始まりました。農協をよりどころに明るい豊かな地域社会を築くため様々な活動を行っていますが、活動の基本は「みんなで幸せに生きる」こと。そのためJA金山では「楽しみ・役立つ活動」をコンセプトに部員総意のもと毎年各事業を展開しています。

料理講習や脳ドック等計画

令和元年度計画では、①仲間づくり・地域づくり・組織づくりの3づくり、②食と農を守る積極的な活動、③農業・農政活動―の3つの推進活動や、消費者活動と暮らしをJAに積み上げる運動、さらに関係諸団体との連携を基本に農業者として生活者として地域の一人として、住みよい地域社会づくりをめざし活動を展開してゆきます。

主な活動計画は、6月に夏季講習会（料理）、8月の農協まつり、9月が一泊研修旅行（草津）、10月に収穫感謝祭と産業まつり、11月は山形県家の光大会と脳ドック、12月に正月生け花講習会と家庭の日推進大会、2月は冬季講習会、そして3月にミソづくり講習会と山形県女性協総会等となっています。

新役員は、部長に松田秀子さん、副部長が丹美由紀さんと横山芳子さん、理事に天口美代子さんと佐藤しげ子さん、監事は八鍬稲子さんと大竹朝美さんです。

部員一丸で活動活発化

金山農協青年部第67回総会

金山農協青年部は6月14日、第67回総会を営農部研修室で開き、平成30年度事業報告と収支決算書、令和元年度事業計画と収支予算書及び会費の賦課と徴収方法変更の全3号議案を可決いたしました。

令和元年度の基本方針として、農協まつりや収穫感謝祭、町産業まつりなどへ積極的に参加し盟友と町民の交流を一層深めてゆくことや11月開催予定の青年の主張への参加による地区青協との連携、また、新たな活動を提案するなど、組織のあり方も検討してゆく予定です。

令和元年の活動計画

令和元年度は4つの事業指針に基づき活動を展開してゆきます。

一つ目は、組織の充実・強化です。農協まつりでの餅つきなど各種イベント への参加、町レクレーション・イベント活動の実施、町内青年組織などとの連携強化をはかります。

二つ目が、学習・研修などの実施で、全体研修会開催や各種学習活動、また、県、地区青協への参加を行います。

三つ目は、「生産活動」と「振興」です。地域農業の担い手としての組織活動の試みです。

四つ目として、収穫感謝祭や町産業まつりなど、農協事業及び町行事への参加です。

歴史ある金山農協青年部の第67回総会

青年部総会で来賓祝辞を述べる柴田孝男筆頭理事

組合員・地域のため 事業推進の早期必達誓う

JA金山は4月20日、令和元年度事業の早期必達を誓う事業推進大会をJA会議室で開き、一町一JAの特色を発揮した推進体制のもと、必要とされ喜ばれる事業に取り組むこと、組合員・利用者とのコミュニケーションを強めながら満足感と信頼感を醸成してゆくこと、そして職員間の連携強化をはかり信用・共済・購買3部門の事業推進を総合的に展開してゆくことを誓いました。

共済「ひと」保障を重点

信用事業は貯金契約と年金やJAカードなど新規利用の拡大、農業資金・各種ローンの伸長。共済事業は組合員との関係性強化と「ひと」保障の生命系が重点。購買事業は、一般生活事業や食材事業、生活用品の共同購入、県産果汁愛飲運動を展開します。大会では、だるまへの入瞳式後、職員を代表して信用部経済指導課の佐藤諒一さんが決意を表明、早期必達を誓いました。

推進大会後に開いた職員全体研修会で2019年度のJA金山コンプライアンス・プログラム（法令順守）を星川賢一参事が説明。JA金山職員の行為基準の確認やマネー・ローンダリング等反社会的勢力の排除対策にかかる対応周知など、順守徹底を確認しました。

職員一丸となり各事業推進に取り組んでいます。今後ともご理解・ご協力をお願い申し上げます。

職員を代表して柴田義正組合長へ決意表明を行う佐藤さん